

天理教の朝夕の礼拝

天理教教会本部で毎日勤められる朝勤と夕勤は、半月ごとに開始時刻が変化する。朝勤は日の出に、夕勤は日の入りに合わせて勤められるためである。4月後半の朝勤は午前6時、夕勤は午後6時30分から、そして4月前半の朝勤は午前5時45分、夕勤は午後6時45分から勤められる。

このように、半月ごとに刻々と開始時刻が変化するが、日中の時間が最も長い6月中は朝勤が午前5時、夕勤は午後7時30分からとなる。それに対して、日中の時間が最も短い12月中の朝勤が午前7時、夕勤が午後5時である。このことは、自然のサイクルを、天理教の信仰に取り入れて生活していることを示している。

デジタル時代の断食月 (ラマダーン)

2021年のラマダーン月が4月13日の日没から始まった。2021年のラマダーンは、5月12日の日没を待って終了予定である。

イスラームの礼拝時刻は、日の出と日没を基準として、毎日微妙に変化する。たとえば断食初日の4月13日、奈良県天理市に在住するムスリム (イスラーム教徒) が日の出前の礼拝 (ファジュール fajr) を行おうとすると、時刻はちょうど午前4時からである。そして、礼拝の時刻は、翌14日に3時58分と毎日少しずつ時刻が早まっていく。それは、13日の天理市の日の出が5時28分、14日の日の出が5時26分と少しずつ早くなっていくからである。

断食に際して、ムスリムは日の出前の礼拝を告げるアザーン (礼拝の呼びかけ) が始まる前に、食事を済ませなければならない。4月13日の日没時刻が6時27分なので、12時間以上、彼らは飲食を行わずにいることになる。

筆者がこのように天理市の礼拝時刻を知ることができるのは、近年、目まぐるしく変化するデジタル革命のお陰である。現在、科学技術の発展に伴い、日本の各市町村における断食の開始時刻が1分単位で分かるようになっている。たとえば、Islamic Finder というインターネット・サイトでは、「Tenri, JP」 (日本・天理市) と表示され、天理市での礼拝時刻を1年を通して知ることができる⁽¹⁾。また、スマートフォンでは、礼拝時刻を確認できる「アプリ」 (アプリケーション) が多数あり、GPSの位置情報と連動して現在地での礼拝時刻が瞬時に割り出される。さらに、アラーム機能と連動しており、礼拝時刻を知ることができるようになっている。

断食月の夜の祈り

筆者が知りうる限りであるが、ラマダーン月におけるムスリムたちの労働意欲は、それ以外の月に比べると少なからず落ちるように思われる。しかし、ムスリムたちの口から、断食が辛いという言葉聞いたことはなかった。それは、彼らがムスリムとしての信仰的義務を喜んで果たそうとしているからだろう。

日本では、ムスリムは1日5回礼拝すること、「ラマダーン」では、日中に飲食を断つが、日没後に飲食可能であることを知る人が少なくない。しかし、日没後の礼拝 (マグリブ Maghrib)

が終わって東の間、すぐに夜の礼拝 (イシャー 'Ishā') があること、そしてさらに「タラーウィーフ」 (tarāwīḥ) と呼ばれる数時間の礼拝があることを、どれくらいの人知っているだろうか。

タラーウィーフとは、ラマダーン月の夜に行われる任意の礼拝である。この礼拝がアラビア語で「休息」を意味するタラーウィーフと呼ばれる理由は、この礼拝が4ラカア (rak'ah 複数形はラカアート rak'āt) ごとに一定の休息を取ることに由来する。ラカアとは、礼拝における一連の動作を指す。この礼拝は、ムスリムの義務ではないことが知られている。このことについて、ブハーリーが収録したハディース (預言者ムハンマドの言行録) では、次のように述べられている。

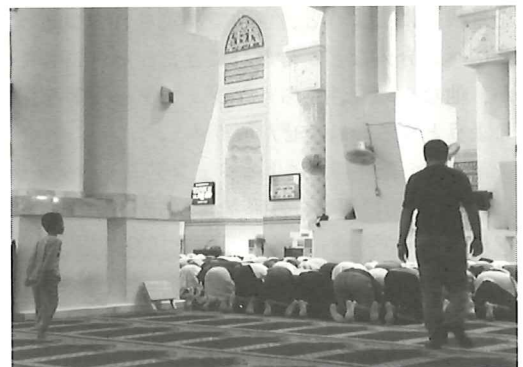
ラマダーン月に義務以上の礼拝を行うことは信仰の行為の一つ

(一) アブー・フライラによると、神の使徒は「信仰し、来世の報いを望んでラマダーン月に礼拝を行う者は、過去に犯した罪を赦される」と言った⁽²⁾。

タラーウィーフは、夜の礼拝直後に自宅やモスクで行われる。どれくらいの回数の礼拝を行なうかについては諸説あり、8ラカアとも20ラカアとも言われている。

祈りの1ヵ月

筆者が、マレーシアに滞在していたときのことである。断食月の初日、日没前に友人のアフマドと一緒に夕飯を買いに行った。夕食



を食べた後で (マレーシア国際イスラーム大学内のモスク、2011年) 過ごすのかと彼に聞いたところ、彼は大学中央に位置するモスクで行われるタラーウィーフへ行くことと答えた。せっかくなので、筆者も彼に同伴してモスクに付いていった。アフマドは、7時半頃に日没の礼拝をすませた後、断食明けの食事を取り、8時半過ぎにはモスクに向かって出発すると言う。

タラーウィーフの礼拝は夜の礼拝直後に始まる。筆者はモスク後方から礼拝の様子を眺めていたのだが、礼拝はなかなか終わらない。一度、9ラカアを終えて多くの人が退席したが、アフマドは最後まで残って礼拝していた。結局9時過ぎから始まったタラーウィーフが2時間続き、彼が筆者のところに戻ってきたのは、11時頃だった。彼の充実した顔がとても印象に残っている。筆者はその後、もう一度だけ彼に付いていった。彼は、ほとんど毎日タラーウィーフに参加していたようである。

[註]

(1) Islamic Finder (<https://www.islamicfinder.org/>) 2021年4月6日アクセス。

(2) ブハーリー『ハディース イスラーム伝承集成』(上)、中央公論社、1993年、31頁。